

# 新冠にまつわるお話しを集めた 新冠百話

## 第五十六話

### 「御料牧場の解放と 緊急開拓（語り）」（要約文）

戦後になり、軍馬を育成していた御料牧場が解放されるにあたって、当時の場長さんと土地の入植について話し合いました。しかし、その話の内容は、入植を希望する我々にとっては納得がいかないものでした。そのため、農業に従事することを希望する人を募り、帰農期成同盟という団体をつくりました。まず、入植のための土地の割り当てを概ね私が決め、支庁や北海道の了解を取り付けました。基本的に家族持ちの人を優先的に入植させるようにしました。各地区における個々への配分箇所については、グループごとに抽選で決めました。その中で、アイヌの方々の問題がありました。もともと、大富や万世に住んでいましたが、大正時代に平取の上貫気別へ追われたことがありました。そのため、戦後開拓の際にはこの場所に戻って来て入植したいという希望がありました。このことは話し合って決着が付き、アイヌの人も入植することになったのです。

から、いろいろと村で手伝っていたら、私たちにとっては嬉しかったです。でも、新冠にはたくさんの開拓者がやって来ましたが、離農する人が結構いて、結果的に半分くらい離農したのではないのでしょうか。入植した人は大変な苦勞があったのだと思います。

私は入植した最初の二年間は、まわりの方々と共同で作物をつくりました。その後、ある程度自分の希望する作物がとれるようになりしました。あの当時は住宅の補助金があつて、小さな家でも建てると五万円円の補助金がありました。鍬などの農機具は、緊急開拓者に対して国がある程度の支援してくれました。また、土地が割り当てから数力年で開拓をしない、という決まりがありました。支庁から職員が来て、正しく開拓や農業をしているか検査されるのです。私もその検査に同行して、結果を村に報告する仕事もしていました。だから、私は七周年役場の嘱託としてその仕事を行い、若い開拓者に指導をしていました。

今、新冠がこれだけ発展したのは、開拓に携わった農業従事者が最大の功労者だと思っています。

戦後は、日高管内で約一五〇〇戸の入植世帯がありますが、その半分は新冠で占めています。新冠は御料牧場を拡大に抱えていましたが、他の地域は緊急開拓地として解放する所が少なかったのです。当時の新冠村長、たつた十倉さんは、御料牧場の解放を積極的に進める方でした



戦後開拓の様子  
農耕馬を使い畑地として土地を耕す

### ～ 救うのは 一番近くの あなたの手 ～

- 呼吸や心臓が止まったら・・・心肺蘇生・AED（自動体外式除細動器）
  - のどにものが詰まったら・・・気道異物の除去
  - ケガや病気におそわれたら・・・応急手当
- 気軽に講習会を受講しましょう！まずは消防へ連絡⇒47-2666

火災・救急出動状況		（ ） かつこ内は前年同期	
区分	火災件数	救急件数	
4月	0件（2件）	32件（34件）	
5年1～4月	2件（4件）	107件（116件）	
交通事故発生状況		（ ） かつこ内は前年同期	
区分	発生件数	死者	傷者
4月	0件（1件）	0人（0人）	0人（2人）
5年1～4月	1件（2件）	0人（0人）	1人（4人）

### 人の うごき

（4月末現在）

人口	5,195人	（前月比 + 6人）
男	2,589人	（前月比 + 1人）
女	2,606人	（前月比 + 5人）
世帯	2,826世帯	（前月比 + 19世帯）

### 戸籍の窓

3月21日～4月20日までの届出分（敬称略）

#### ●いつまでもお幸せに

白戸 雄太郎♡芝田 早苗 太陽

#### ●お誕生おめでとうございます

山口 咲桜（浩季 結衣）北星町  
山口 未桜（浩季 結衣）北星町

#### ●おくやみ申し上げます

越湖 俊弘 95歳 朝日  
柿崎 静子 91歳 北星町  
明石 豊七 85歳 節婦町  
三宅 悦子 73歳 本町  
早川 ゆき 97歳 美宇

☆広報に掲載してほしい方は届出のとき、町民生活課住民係へお申し出ください。

#### ●お問い合わせ先

町民生活課町民生活グループ住民係  
☎0146・47・2112